

ぼくのじまん

広島県 安田小学校 一年

亀尾かみお 泰慶やすのり

「心がはちきれぬくらいすき。」
 いえではお父さんのことをパパとよんでいます。小さいころからずっと。

お父さんは、ぼくが学校からかえると、とんできてくださいます。くれま。

お母さんがおしごとのとき、お父さんがかわりにおりようりがかりをします。お父さんは、お母さんをあいしているんです。いつもせんたくは、お母さんがしてくれま。ぼくのくつ下がどろだらけなので、せんざいはつよいものをつかいます。とくべつに手でごしごしあらいま。だから、お母さんのつめとゆびのかわがむけてしまつてぼろぼろになります。それで、お父さんがあらつてくれま。お父さんは、お母さんをまもつています。ぼくは、「くつ下をよこしてごめんない。」と心の中で言つていま。本当は、こえに出して言いたいと思つていま。でも、その言葉を言つてしまつて、くつ下をよこさなくなつたら、パパのかつこいいすがたがみられなくなつてしまいま。だから言いたくありません。

お父さんのところには、おはなしをきいてほしい人がよくたずねてきま。お父さんはおほうさんです。

「おからだのちようしはどうですか。」

「このまえよりおげんきそうすね。」

「じぶんをしんじてあげてください。」

「どの子どもにもかのうせいがあいま。」

などのおこえがけをしま。子どもがきたら、おそなえもののおかしをわたしているのもよくみかかま。ひろい心でだれにでもはなしかけているから、人がたずねてくるのだと思いま。ぼくだつたらはずかしくてこえが小さくないま。

ぼくのともだちがあそびにきたときもりよう手いっぱいのおむかえをしてくれま。

ぼくのじまんのパパです。

そんなお父さんをぼくはよくおこらせてしまいま。たとえぼはんのたべかたです。ワンちゃんのようなたべかただとしかられてしまいま。きもちは、「またやつちやつた。」です。そしてまたやつてしまいま。

「たいど」でしかられることもありま。学校からかえるとまづ、ランドセルをきまつたばしょにおいて、手あらいうがい、きがえにしゆくだい、あしたのじゆんびをしなければならま。それなのに、ぼくはとちゆうで本をよんだりぬいぐるみをだっこしたり。

お父さんは、ぼくにかつこいい人になつてほしいのだと思いま。「じぶんのことができていないとほかの人をたずけることはできない。それではやくしなればならぬ。」つてあなたにおしえてくれているのよ。」とお母さんはやさしいかおではなしてくれま。ごめんない。パパまい日ありがとう。ぼく、パパみたいにかつこよくなりたいよ。」

ぼくのじまんのパパなんです。